

(資料)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

# かわさき健幸福寿プロジェクト

## 要介護度等改善・維持評価事業について

川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

## 「したい」「やりたい」をあきらめない！かわさき健幸福寿プロジェクトとは？

**高齢者の自立支援に向けた質の高いケア**を評価する仕組みの構築を目指して平成26年度から開始されたプロジェクトです。「こんな生活を送りたい」というような目標を持っていただき、介護サービス事業所と一緒に、その達成に向け、要介護状態の「改善」や「維持」を目指して取組んでください。

### 何を評価 するの？

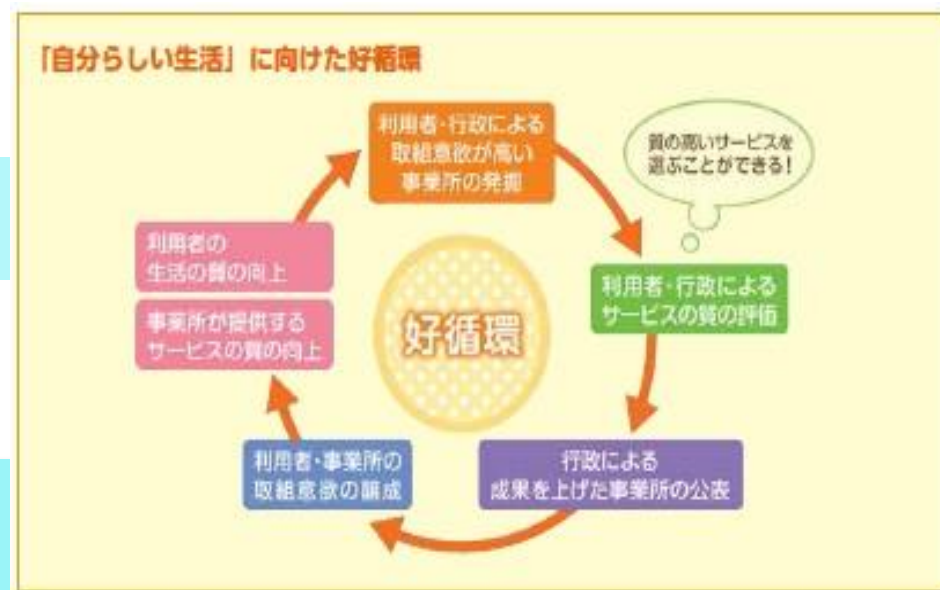
**「要介護度」「ADL」等**の改善・維持を評価対象とします。（評価指標）

### 参加したらどんな効果が あるの？

参加した皆様の**意欲向上**など、前向きなチャレンジを後押しすることができます。

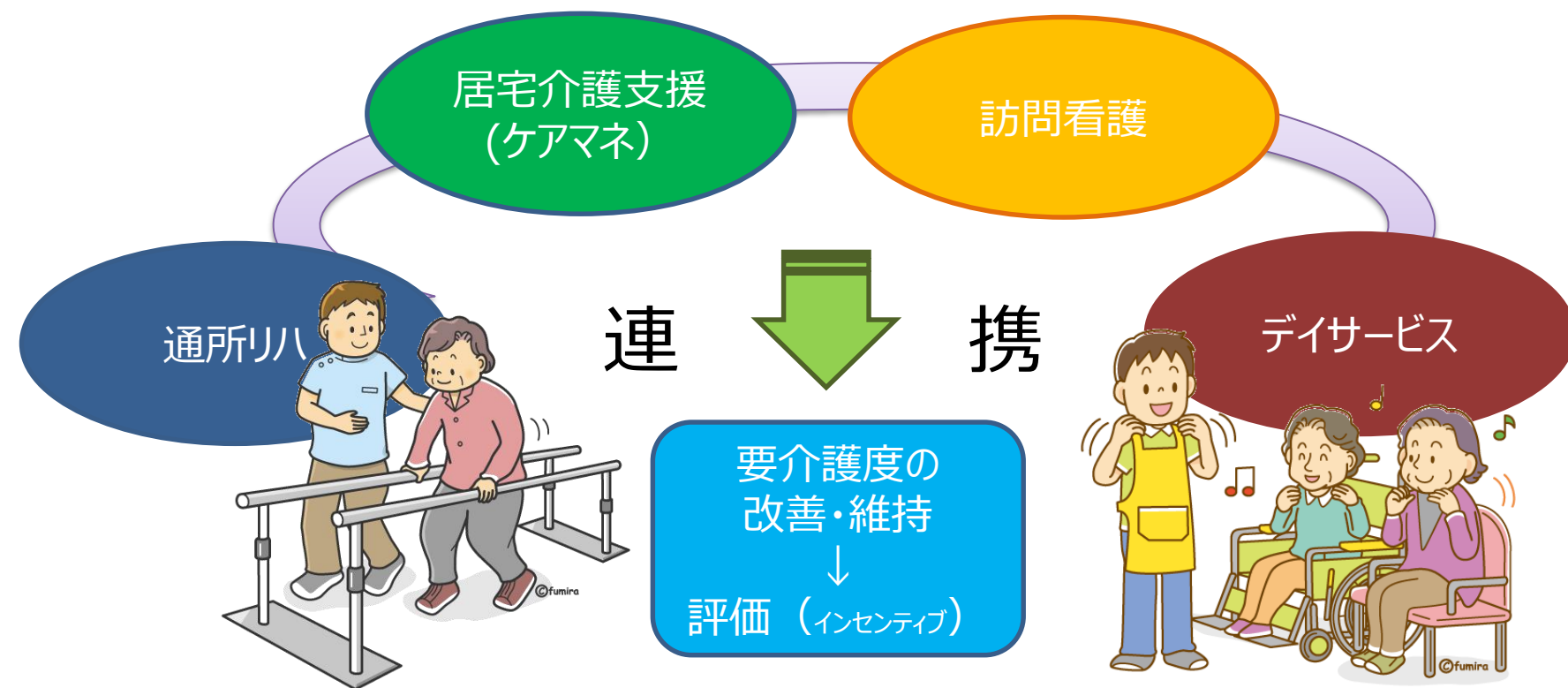
また、事業所の努力や工夫をしっかりと評価することによって、事業所のモチベーション向上やスキルアップによる**サービスの質の向上**が期待できます。

参加による取組の成果に対しては、**インセンティブ**という形で、参加者、事業所それぞれにお渡しし、更なる取組意欲の向上にお役立ていただいています。



## 『チームケア』による介護サービスの成果を評価！

居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）を中心とした、他（多）職種の連携による相乗効果により、質の高いサービスの提供を行い、その成果について評価を行います。



特別養護老人ホームやグループホームにおいても同様に、配置される様々な職種の職員間連携によるチームケアを評価しています。

## ① 成果指標

### ◆ 要介護度

2019年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合

その他、改善に至らなかった場合であって、同一の要介護度を**一定期間を超えて維持**した場合

### ◆ A D L 等（変化を測るため、認定調査票における能力評価の調査18項目を指標として用いる）

2019年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合

（A D L 改善の評価は、直近の要介護認定時に、本市の認定調査を受けている方に限ります。）

## ② インセンティブ付与（予定）

- ◆ 報奨金 5万円程度 （「要介護度の改善」又は「A D L 等の一定以上の改善」があった場合）
- ◆ 市が主催するイベントにおける市長表彰
- ◆ 成果を上げたことを示す認証シールの交付（事業所向け）
- ◆ キーホルダーや参加の証（あかし）カードの交付（御利用者向け）
- ◆ 市の公式ウェブサイト等への掲載
- ◆ 事例検討会等における公表や事例集への掲載

**（※）報奨金等については、市議会における2019年度予算議案の議決を要します。**

# A D L等の変化を測るための指標

調査項目	選択肢
寝返り	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
起き上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
座位保持	1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえればできる 4. できない
両足での立位保持	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
歩行	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
立ち上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
片足での立位	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
視力	1. 普通(日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能
聴力	1. 普通 2. 普通の声がやっと聞き取れる 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる 4. ほとんど聞こえない 5. 聞こえているのか判断不能
えん下	1. できる 2. 見守り等 3. できない
意思の伝達	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない
毎日の日課を理解	1. できる 2. できない
生年月日や年齢を言う	1. できる 2. できない
短期記憶	1. できる 2. できない
自分の名前を言う	1. できる 2. できない
今の季節を理解する	1. できる 2. できない
場所の理解	1. できる 2. できない
日常の意思決定	1. できる(特別な場合でもできる) 2. 特別な場合を除いてできる 3. 日常的に困難 4. できない

18の調査項目の選択肢の番号について、取組開始時の合計から終了時の合計を差し引き、差がプラスであれば改善、ゼロであれば維持、マイナスであれば悪化とし、改善した場合にインセンティブを付与。なお、差が5以上の場合は、報奨金の付与を予定。

## ①対象者の要件

- ◆ プロジェクトの趣旨を踏まえ、要介護度等の改善に向けた意欲のある方
- ◆ 2019年7月1日時点で要介護1～5の認定を受けている方
- ◆ 川崎市の介護保険証をお持ちの方（川崎市の被保険者）
- ◆ その他、次のいずれにも該当しない方

- × 直近の要介護認定時と比較して、プロジェクト参加申請時点の心身状況に著しい改善が見られる方
- × 給付制限等の対象となっている方

## ②参加資格（事業所）

市内に所在する全ての介護保険指定事業所が対象となります。複数の介護サービス事業所がケアに関わっている場合、**居宅介護支援事業所が代表（申請者）**となってチームとしての参加申請をしていただきます。なお、以下の事業所は単独での申し込みが可能です。

### 単独申込が可能な事業所

- ◆ 介護老人福祉施設（地域密着型を含む。）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設
- ◆ 特定施設入居者生活介護事業所、認知症高齢者グループホーム
- ◆ （看護）小規模多機能型居宅介護事業所（他サービスの給付管理も行う場合は、居宅介護支援事業所と同様の手続きを取ってください。）

# 第3期プロジェクトの取組結果概要

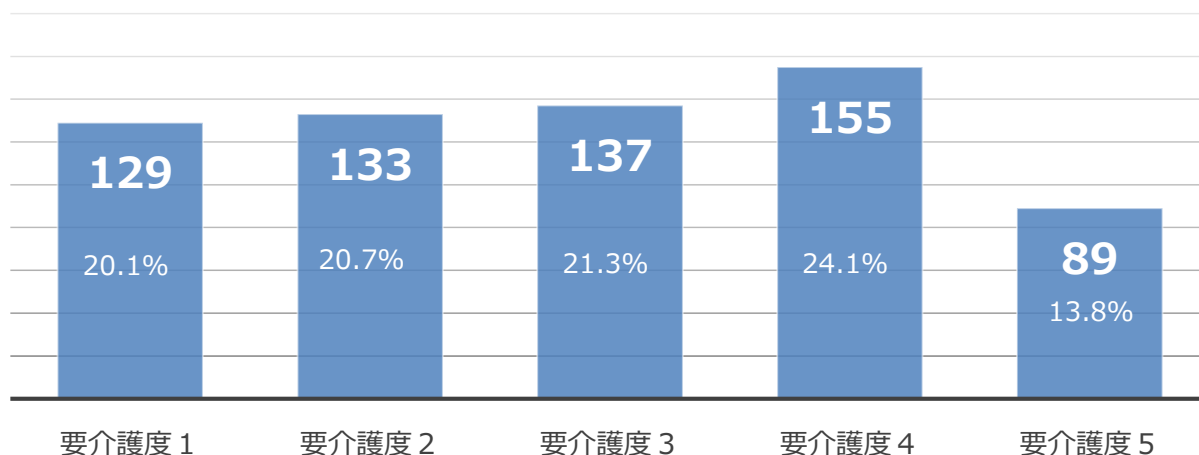
## 参加利用者と事業所の数

参加利用者数：643名

参加事業所数：363事業所

(のべ1,050事業所)

要介護度分布一覧（第3期プロジェクト開始時点）



参加者643名の  
要介護度の分布は  
左図のとおり。

第1・2期と同じく要  
介護度4の方がやや  
多い。

## ●利用者の属性と内訳について

### ◆性別別

男性：173名（26.9%）

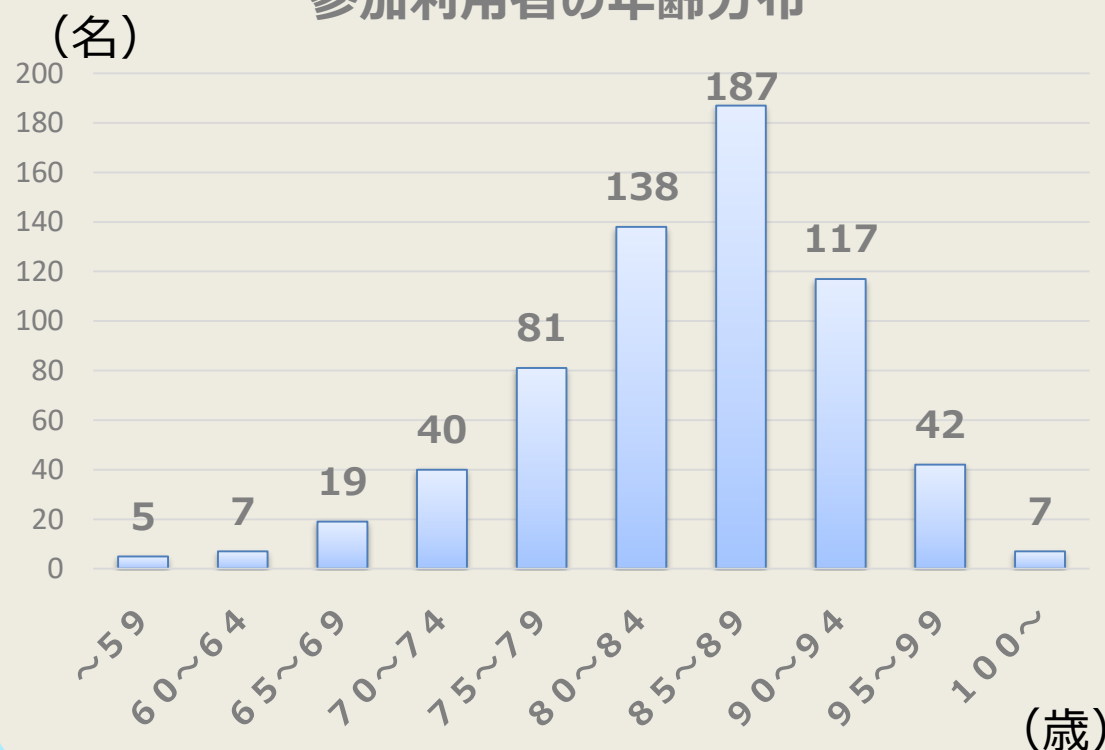
女性：470名（73.1%）

### ◆年齢別

最も多いのは  
85～89歳の方  
→187名

最高齢は  
103歳の方  
(参加時点)

参加利用者の年齢分布

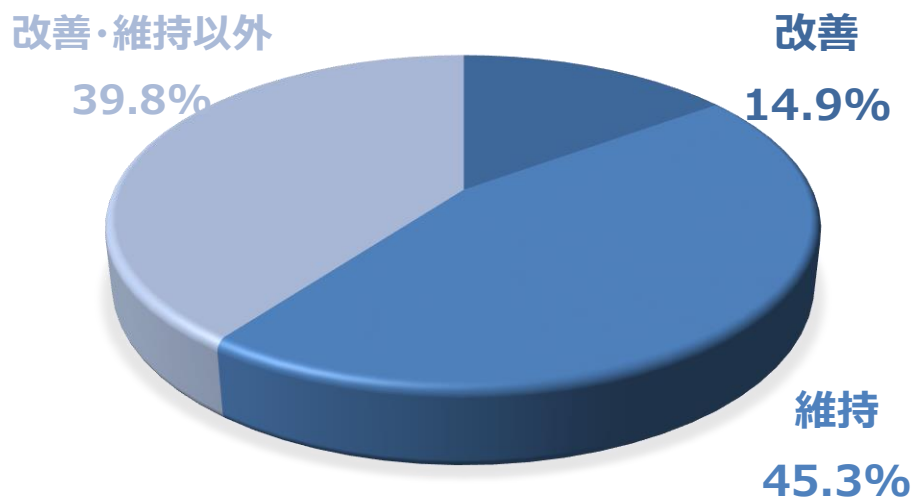


## 参加事業所の内訳について（3期比較）

サービス種別	第3期	第2期	第1期
訪問介護	48	40	25
訪問看護	19	25	12
訪問リハビリテーション	3	2	3
訪問入浴介護	3	0	4
居宅療養管理指導	5	12	5
通所介護	45	40	29
通所リハビリテーション	18	14	11
短期入所生活介護	11	9	11
短期入所療養介護	2	1	2
特定施設入居者生活介護	17	34	10
福祉用具貸与	22	20	15
居宅介護支援	61	55	54
介護老人福祉施設	21	29	18
介護老人保健施設	1	1	0
夜間対応型訪問介護	3	3	1
地域密着型通所介護	30	25	16
認知症対応型通所介護	3	4	9
小規模多機能型居宅介護	14	6	3
認知症対応型共同生活介護	32	16	14
地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	0	2	3
看護小規模多機能型居宅介護	3	2	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	4	0
<b>総 計</b>	<b>3 6 3</b>	<b>344</b>	<b>246</b>

## ●第3期 結果の概要

	人数	割合
要介護度が改善された方	96	14.9%
要介護度を維持された方	291	45.3%
改善・維持以外の方	256	39.8%
合計	643	100.0%



## ●利用者643名の介護度の変化について

(1) 要介護度が改善された方・・・96名 14.9 (%)

- ◆要介護度が4改善した方・・・3名
- ◆要介護度が3改善した方・・・11名
- ◆要介護度が2改善した方・・・23名
- ◆要介護度が1改善した方・・・59名

### 要介護度が改善した方の 詳細について

- 要介護度が改善された方は  
全参加者のうち96名  
14.9 (%) であった。
- このうち、要介護度を2以上改善  
した方が37名（改善された方の  
うち38.5%）であった。

要介護度が4改善した方	
要介護度5から要介護1	1
要介護度4から要支援2	2
要介護度が3改善した方	
要介護度5から要介護度2	10
要介護度4から要介護度1	1
要介護度が2改善した方	
要介護度5から要介護度3	5
要介護度4から要介護度2	5
要介護度3から要介護度1	10
要介護度1から要支援1	3
要介護度が1改善した方	
要介護度5から要介護度4	8
要介護度4から要介護度3	17
要介護度3から要介護度2	14
要介護度2から要介護度1	18
要介護度1から要支援2	2

## (3) 要介護度の改善・維持とADLの改善度合いの関係

### ◆要介護度が4改善された方

要介護度が4改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護度1	1名				1名
要介護度4から要支援2	1名	1名			2名
<b>合計</b>	<b>2名</b>	<b>1名</b>			<b>3名</b>

### ◆要介護度が3改善された方

要介護度が3改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護2	1名				1名
要介護度4から要介護1	7名	3名			10名
<b>合計</b>	<b>8名</b>	<b>3名</b>			<b>11名</b>

最も改善が大きかったADL項目は、「**両足での立位保持**」で上記14名の変化を合計すると－14ポイントであった。次に改善が大きかったのは「**寝返り**」と「**片足での立位**」でどちらも合計－12ポイントであった。

## ◆要介護度が2改善された方

要介護度が2改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護度3	2名	2名		1名	5名
要介護度4から要介護度2	3名	2名			5名
要介護度3から要介護度1	1名	6名	2名	1名	10名
要介護度1から要支援1		1名		2名	3名
<b>合計</b>	<b>6名</b>	<b>11名</b>	<b>2名</b>	<b>4名</b>	<b>23名</b>

## ◆要介護度が1改善された方

要介護度が1改善した方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
要介護度5から要介護度4	2名	2名		4名	8名
要介護度4から要介護度3	3名	8名	2名	4名	17名
要介護度3から要介護度2	1名	6名	1名	6名	14名
要介護度2から要介護度1	3名	8名	1名	6名	18名
要介護度1から要支援2		1名		1名	2名
<b>合計</b>	<b>9名</b>	<b>25名</b>	<b>4名</b>	<b>21名</b>	<b>59名</b>

# 第 2 期プロジェクトの取組結果について

## 1. 第2期・利用者の参加状況 516名

## 2. 利用者の属性と内訳について

### ◆性別別

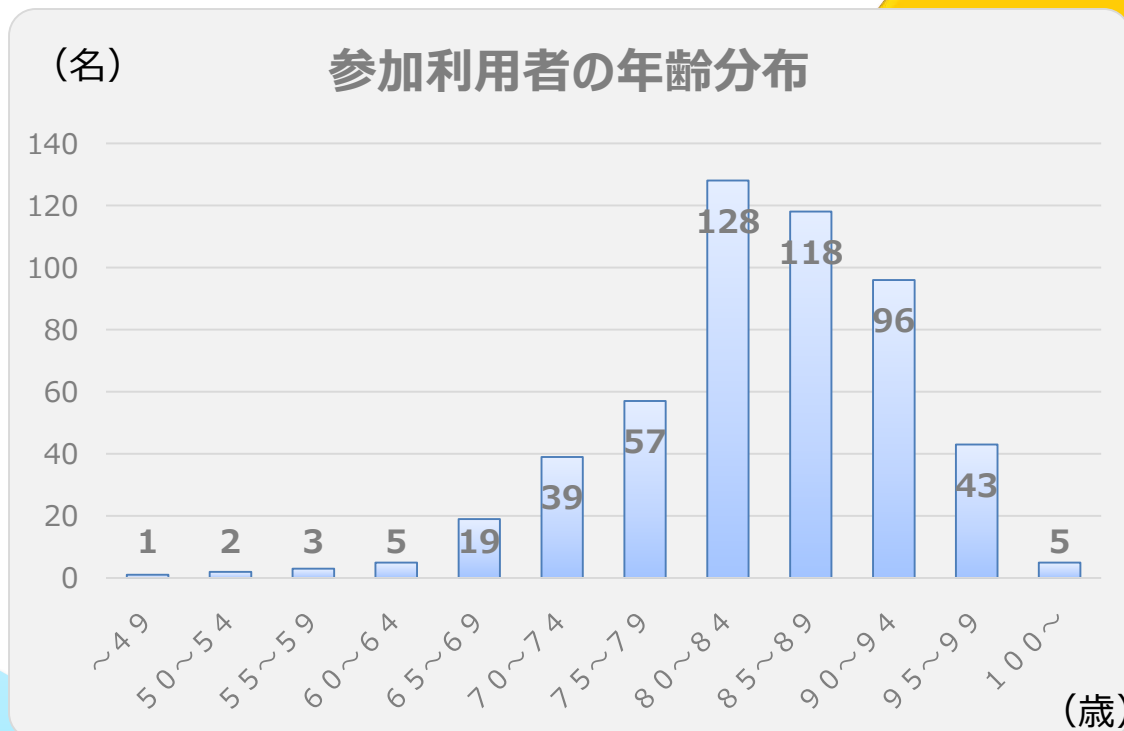
男性：128名（24.8%）

女性：388名（75.2%）

### ◆年齢別

最も多いのは  
80～84歳の方  
→128名  
(第1期は85～89歳)

最高齢は  
103歳の方  
(参加時点)

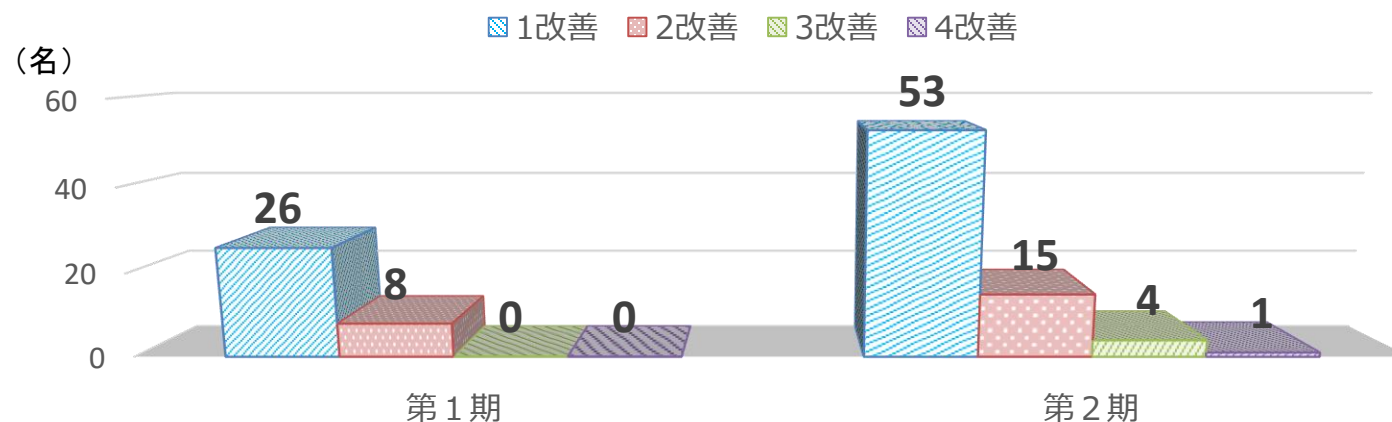


## 3-1 利用者の介護度の変化

要介護度を改善された方・・・第2期：73名（14.1%）

【参考】第1期：34名（15.9%）

### 介護度の改善度合い



### 日常生活動作（ADL）の改善度合い

要介護度を改善された方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
第2期合計	21名	32名	8名	12名	73名
第1期合計	3名	17名	6名	8名	34名

## 4. 要介護度を維持された方・・・248名（48.1%）

要介護度を 維持された方	ADL				合計
	5ポイント以 上改善	4～1ポイン ト以上改善	0ポイント	0ポイント 未満	
要介護度 5	1名	5名	54名	12名	72名
要介護度 4	3名	3名	32名	6名	44名
要介護度 3	2名	8名	33名	7名	50名
要介護度 2	1名	3名	25名	8名	37名
要介護度 1	1名	9名	23名	12名	45名
<b>合計</b>	<b>8名</b>	<b>28名</b>	<b>167名</b>	<b>45名</b>	<b>248名</b>

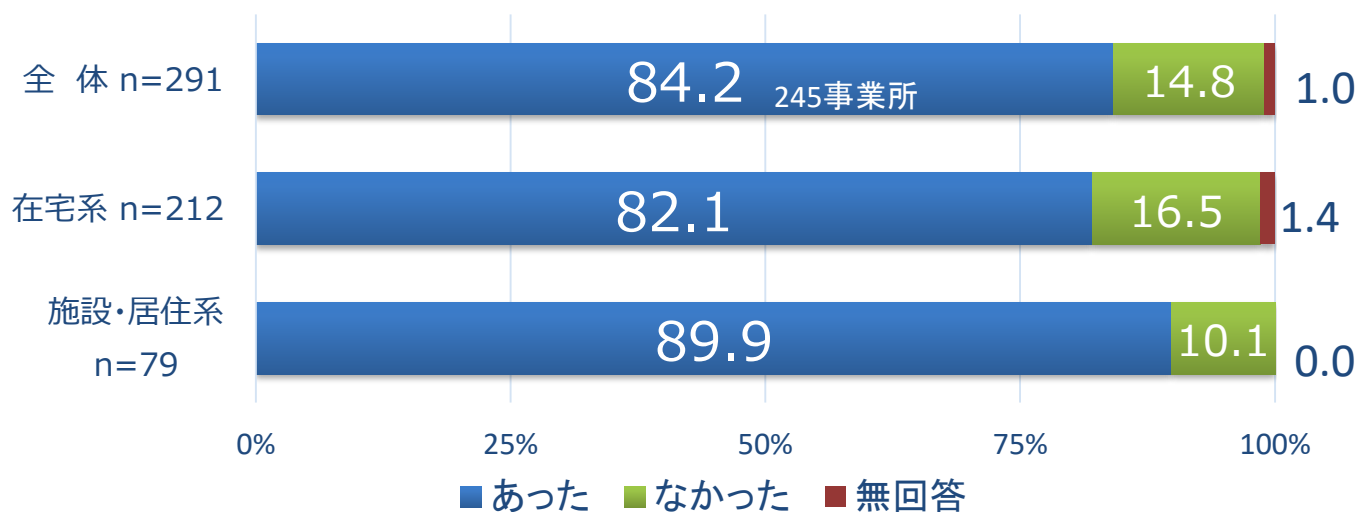
### 要介護度を維持された方の詳細について

- 要介護度を維持された方は全参加者のうち約半数の248名（48.1%）であった。
- ADLの状態で見ると、248名中203名（81.9%）の方がADLを改善ないし維持（0ポイント以上）されていた。

## ●事業所に与えた影響①

プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響

### 自事業所の変化（プラス面の有無）



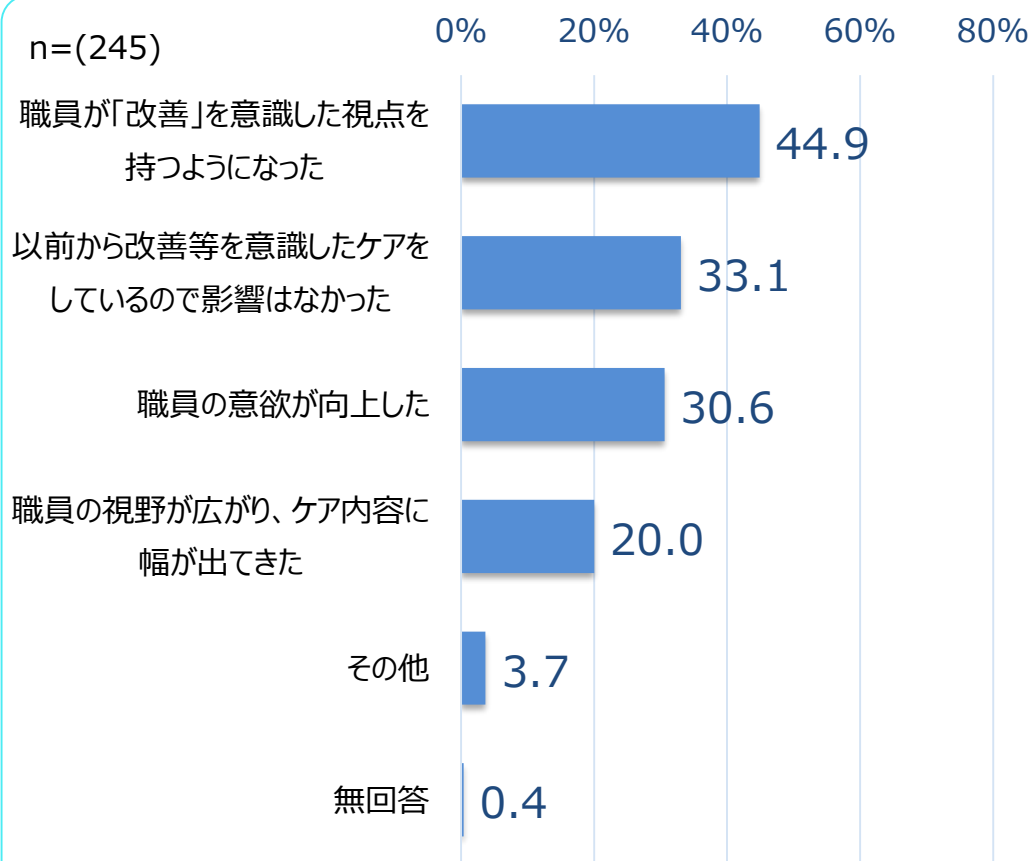
- プロジェクト参加を通じて80%を超える事業所に、何らかのプラス面の影響があったことを確認することができた。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化②

## ●事業所に与えた影響②

前頁：プラス面があった245事業所が回答

### 自事業所のプラス面の変化内容（複数回答）



●改善を意識する、意欲が向上する等、職員の行動変容に与えた影響は少なからずあった。

●「影響はなかった」項目のポイントが第1期に比べ約6ポイント上昇している。（第1期27.4%）  
⇒プロジェクトが推進する意識の改革が根付き始めている。

●その他、御意見としては次のようなものがあった。

- ・他事業所との連携をより強く意識し、情報共有が密になった。
- ・様々な観点から取組める職員とそうでない職員との意識格差が広がってしまった。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化③

## ● 事業所から見た利用者・家族の意識変化について

### プロジェクト参加による利用者・家族へのプラス面の変化

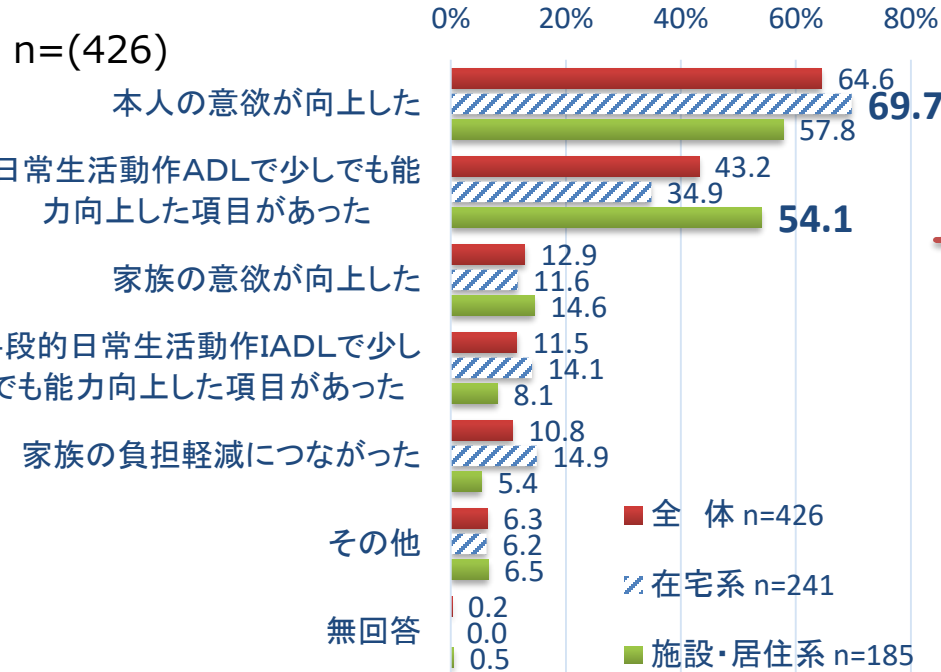


- 69.3% (426) の事業所でプロジェクト参加をきっかけとして、利用者・家族へのプラス面があったと評価している。

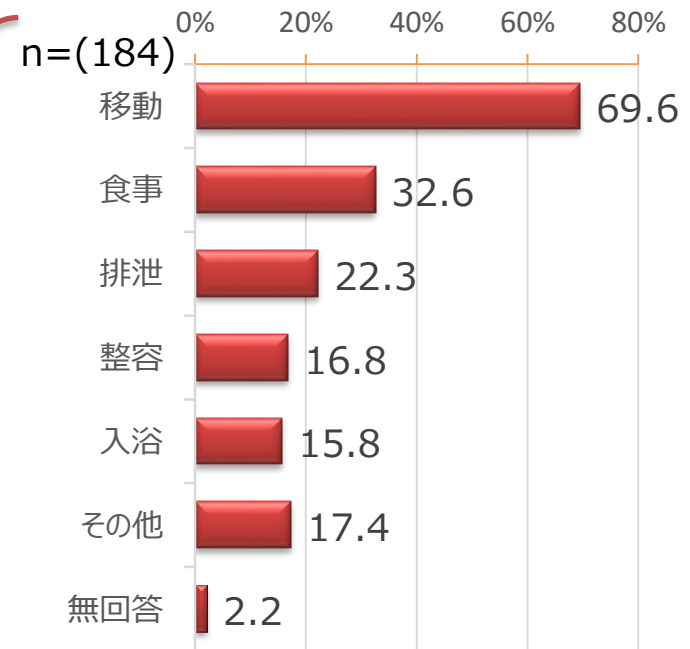
# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化④

## ●事業所から見た利用者・家族のプラス面の影響

### プラス面の内容（複数回答）



### A D Lの向上項目（内訳）



- プラス面があったと回答した事業所の6割超が、利用者本人の意欲向上を捉えている。
- 意欲向上は在宅系が、A D Lの向上は施設・居住系の方がそれぞれポイントが高かった  
（意欲⇒在 69.7 : 施 57.8 ） （A D L⇒在 34.9 : 施 54.1）
- 能力が低下しない、維持ができたことを評価する事業所の意見が多数出ていた。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

# かわさき健幸福寿プロジェクト 事業効果検証の方向性について

川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

今回結果をお示した第3期で、本プロジェクトを3年通して実施したこととなり、この3年をひとつの区切りと捉え、これまでの事業効果について総合的な検証を行います。

検証は、事業を本格実施した際に設定した本プロジェクトの狙いが達成されたかという視点で、下記4点に注目し行うことを想定しております。

- ①介護事業所における行動変化
- ②多職種連携の強化
- ③利用者またはその家族の取組み意欲向上
- ④介護給付費抑制効果

①介護事業所における行動変化

②多職種連携の強化

③利用者またはその家族の取組み意欲向上

については、第1期から第2期の参加事業所・参加利用者（家族）アンケート結果に、今後行う予定である第3期におけるアンケート結果を加え、全3期分の結果を総合的に検証する予定です。

④介護給付費抑制効果については、これまで蓄積した要介護認定データ及び介護保険給付実績データを基に分析を行い、効果額の試算を実施する予定です。

介護保険給付額抑制効果の具体的な算出方法としては、プロジェクト参加者と不参加者における、プロジェクト開始時点とプロジェクト終了時点の平均給付費の変化を比較し、プロジェクトの効果による抑制額を算出する手法を想定しています。

